HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	國民社會についてNO２
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	『鈴木榮太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
Issue Date	1964-07-07
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77449
Type	manuscript
File Information	I042_01NO2S38.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

講演草案ノート

38

ス-2

NOTE BOOK

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP

國民社會について

No. 2

38. 11. 12.

意匠登録 No.151492 ノ-2

目次

一、前文つゞき　一
二、人間関係としての日常性論より集団関係の日常性論へ　六
三、コンゴの分析に見よ　七
四、土地と技術　一八
五、現代日常の性格　二〇
六、現代日常経済用具の主要物件　二二
七、日常体験の仕方　二三
八、コミュニティーと地域性　二五
九、近代日常の変質　二七
十、要約的結論
コミュニティー理論と地域性　二八

全体系は大体自給自足出来る範域でその中に分業が自から出来、階級が構成されついような發展もされる。今日の朝鮮は北は石炭や工業品を生産するが食料は乏しい。南は食料は多いが石炭や工業品はない。両方が一つの国家とし依となって分業の組織をもっていた頃は均衡が保たれたが今では南北別になっているとすっかり苦しんでいる。二つの国家をなしているからである。全体系の上に形成される国家は望ましい国家である。けれども今日の国家にはこの望ましい形が保たれていない場合が現れあるし、これからも

入れあり得る。

国家はそこに住む人々がその生活の中に形成するとは限らないから、国家と住民との結着も先づひきはなして考える必要がある。

国家はその国民の幸福を考ふるも必ずしも結着して考える必要はない。

国家は自分のつま力より以上に考える事強者は、他の民族、国民が統治者に有る場合がある。その住民が悪く被支配者になる場合もある。

国家は支配者が被支配者を支配する為の道具であって、被治者に対しても用ゐらるの要素と統制の為の器具である。この器具には武力と思ひ通りに操作し得る押しボタンが附随している。

末端からの姿
家族

国家に没収されている武力はその国内における最優秀の武力であることは定まっている。

国家はそこの住民が純粋のみに構成しているのに決まっているのではなく、そこの住民外の人がそこの住民を統治する（することはある）とふは今にはじまったのではなく、今までもいくらもその例はあったので、それを見落していたのは国家に対する考え方が統治の中央から末端に至っていたから、それを見落したのである。末端から国家を理解するなら、従来も他所の人がその土地の住民を統した例は沢山あったのである。少数民族の

◎階級を其の中間層の立場に立つて理解するなら、階級の協調は全体の為に必要な当然の構成要素と云はなかつたであらう（平然として）

又階級も職業者の集りになつて考へよならば出来られもする嬉しい職業を全体社会の必要な役割りとして認めよ

所謂全体主義者の主張を云ひはなつ勇気は出なかつたであらうか

従て最高の価値よりも君主の身にならず、◎植民地の原住民の身になつて考へるならば、日国家の統治の困窮で（日本）あるよりは当然に日本を嫌つて居るので（恐らく最も熱烈な）あり、誰が誰にでも用ひうる統治用具か国家である。

統治の事務から理解するならば国家は其の住民の為とか平和の為とか、人格の完成の為とか道徳的理想実現の為とかそんな事は到底なかつた筈である。◎

社会学者よ現状に則して発言して来れがそれでも国家は其の住民の為とか平和の為とか云つて来た。甘い見方である。宗教的でないからである。

御近く望して最上の地位の保存を念じつつ考えた日本哲学者日本化した儒学は中国や朝鮮の日系統はの最高の位に高めて考えて来たのだにある。それぞれの地位階級や役割が必要であってても、その地位や役割を順番制にすればよい、それを固定化して無学者になるところに不幸の根源がある。

5

人間個体としての日本理解より集団関係としての日本理解へ、パーソンズやパレートやデュルケーム等もは人間関係としての日本理解であってが米日でも今は集団関係としての日本理解に向って来るであろう。マクスウェーバーでも人間関係としての日本理解であろう。私は主観関係というものは人間関係として理解するのであるが日民族の政構造は集団関係として理解せざるを得ない。

コンゴの内乱に思ふ

コンゴがベルギーの植民地からはなれ現住民の独立のは、我日本がすくくと成長しなつので国連の管理下に入り国際兵が駐屯して治安にあたつて来たが、今だにおさまらないらしい。

文明は植付ける其の程度迄の間に少しづゝ成長させて行く事は大切なので、外部から云はば強制的に援けて行くすすめるはずのかけ離れぬ。馬を川岸まで引っぱって行く事は出来ても無理に水をのます事は出来ぬ。外から見て合理的できっと本人のお

ク

しやうと思ってもその国の文化の成長度の如何によって受け入れて行く過程はその国の人にまかすより仕方がないのではないのか。

今世界は他の国の事に干渉し合ふ事が多すぎる。最も重要なことはよくその国の人々の幸福を思ひやつて、あつても助けるには助け方が大切親切も押売する。その国の為か害ではなく自国の便宜の為にその国の政治に干渉したり指導したりするこの嘗ての帝国主義的侵略の新しい形であると考へる。

今まで国には内外における敵に立ちむかえる武力の組織体があった。人間的人道的に人間が成長して来たるは何よりは外として国が儀的には~~他の[illegible]に[illegible]的に依存~~経験けに善意の国体となり、他の国を尊母の様に愛する~~国~~するその立場で国係と生[illegible]とほとんど口家はその国の内外の敵一から守るなの国の隣平洋を組織まして精一杯ではないのか。

もし他国を軍の基礎のみで必要のかに組閉する国際的があるが為な場合は、自国内の国民と国際の生活権、生活水準すらおかへ

8

る様な事をするもので~~収穫操作ますます低落。~~あろう。

口家の古くからの考へ方は口家は力の団体で他のは利用するか、せらるか、されては不利な場合は何時でも協力を止める。然し協力を止めてしまはなくても何時でも[illegible]要に至るの備えている。原始時の昔人は何ら中は口家の外にかかっては出来ないと信じられて居る。口家のこの性質は今なお昔の番に強へている。にも拘らず口陸内の関係は日に日に多くなりつゝある。交通通信の開発が著しく発展して来たからである。

口腔の機能は日本人は多くなり、利用するかすまいかの性質を指している。陽、口は言語、利用しようとする際利用される側の状態のボりくなって利用しようとする。然し殊に口は最終的になる寸前までしのばれない。それ程性格な弱い口ら陽の口が同時に利用されたりば陽、二つの両方から引っぱられ全てとなく途中で切れて二つの口になる。

現代文化が作り作りし最大の悲劇である。陽口はも二つに割かれた陽門の身になって考える丈の余裕をもたぬ位に他の一方の陽口のニラミて気にしているのである。

（他の口家は

口家は之が自身の為のもので無くも
道徳もそっくりそれは平気で捧げる
ものであることを特徴とする。
毀破した制度が論点をよっていけ時一
度の極印を得て（居れ一たん）流布して了へば之の撤廃（法律上の）
につかなかった時は之が物を捧げのけても罪に（お伴れんとする仲間のは質にか）
はならぬ国事がある。人の生存は（至りの）（を）
絶対に尊いものとして価格を持するのがある
すを認めている。是の同じ法律は口家
は之の存立を危殆ならしむる如何なる権
利も認めぬとするのであるか。認めるか
が認めないか、口家の行動の可否を決定
するのは最も大なる力であり勝てば官
〃

要すれは戦争とは国家の内部の
集団間の対立、また国際間の対立
もしくはその擬制の根であるよ。
今日の新聞にイラクのクーデターの
ベイルートラオス
が報ぜられている。民族東南アジアや
イラクエジプト
中近東、アフリカ、南アメリカの所謂
キューバ
後進国の多いところでは動乱やクーデターや
革命が出来すくにおきている。恐らく
それはそれぞれの力の対立が~~早すぎる~~はなはだしい為に
思はれる。
~~所以であり、~~
我々は明らかに自身の身の可愛さが
どの国を援助している。弱いか大国の自
れない大国を援助するとなら非難一つ

の人口には細かく文化の高さの解がある。私としては
文化や合理性を受け入れ、それぞれ
の経済貿易好要の物のあり方をよく見極
めて援助すべきである事を知るべきであろう。
ここで我々が言はんとすることは今の人口問題を
の土地の住民の側から自分の為に形成する
と思ったものではなく、~~他国~~に統治の
中心は、どんなところに置かれ得るか、
命題は他系との身につける議長やマイノリティ
グループの勇によって口が議決する
すなわち、口又は経済的強制する人から着手組
織である。如何なる主要に強制する体制や独裁
は一層に左か、支配者の属する階層
援助も手段も強制することである。

やグループの生存の鍵が第に存することまきる

をしてつよる大はないかである。

支配者は自分を優しく保つ為に之を~~級~~補

えをするの力能目であるが、其の為には

非自分に惨じする人に全事を偏し

二適すには自分より遠さって行って（さするを得ない）

その全部もなくなって行くのである。

遠ざかっている末端になると支配者より

利害相反する場合が多くなる。その

政治は無理に底辺であり搾取である。

それ故その体式が廻らいがゝある

る。~~の~~末端でも人は平和に働かして土地

は基地として~~中~~大事である。人が口

外に逃げ去らない様にの配慮は口外上
りの便宜に対する配慮と同様に大
きな関心で口授が盛んに行はれた理
由である。
何時の時代にもアイヌ[illegible]（即ち口承の系統から）[illegible]
かであるが、その身になって口承ばかりが政治
とか[illegible]へて見る者がなかったので政治の正体
はよく分らなかったのである。然し太平洋
戦大戦後に中口承のが、植民地[illegible]へ
[illegible]戦争によって、近代史の事実をと
考へ、是こを基礎として新聞せんとする大
日の植民地[illegible]が迫ると共に口承は
大日の植民地[illegible]く手掛りの口[illegible]
今

なり、これらの国々の国民の立場から
日本や政府を改めて理解して見れば
なじめず矛盾が起っている。
日本を二分されて一方はA国に一方は
自国に支配させる異化の手段もおこ
り、医療開発の源へのつて弱小民族
を包含して多大の国が弱小民族の
人権を侵運命になやまされてきたのは当然
である。こうして日本経済の根本的立場
が問題にされるに至った。
漁船や漁具の備が不充分な為に外国
漁業が盛んとなり、そのために日本漁業
権が登場したのは戦後の新体制の一つ
16（の問題

下書の消しての白地紙に労資の労働契約が
二冊、
と同一の性質である。
法律的ではなく適
法則である。

⑩今後土地も権利も日本人として一人一人分の権利はもっている。

土地と権利

アイヌは職業の自由、居住の自由をもち大和民族と何ら権利に差別はない事は皆っ⑪け[illegible]は[illegible]農民が多く今へ農地開放の土地の所有者は全くなくバラバラに分かれて大和民族の中にまじってしかない生活しているのが一般であろう。はずの日[illegible]は他の国民と同一の形式の生活を営みあらゆる権利も義務も国民一人前であるが役割を果させかしてみれば職業につき貧しい生活を営んでいるとしよう。この點へ帰は浮動である、弱小民族

19

のうける没落の運命といつこれは寧
最悪であつて最下の様に見えるのだと
思はれる。マイノリテイーグル~~層~~の中での
道をとるのは多いであろう。日本は
その手段東亜難への責務の為であつて
それは何ぞ人々のおかけはない。
今の様に日本が地球上にはつきり縄
ばりを展開して来れば、一つの国境
を出て一歩も出れば空地はほとんどなく
なる。

現代日本の情勢

一、愛国中心日本　（内部の力）

及び努力せしか外に

二、日本の独立後の発展（主権）化

強国の強制保障指導援助力　（外部の力）

極端な状態にある三方

三、多年に亘って支配者によって（外部の力）

日本の方針は結びつけ……が内部から御する道

一、日本の革命について（日本は大多数の革命に結合）

（内外の政策を除いた）

1 日本が目的を達するための、武力組織

2 居住 共存している者の団体ではない。（地縁）

3 それぞれ個人の団体ではない。（血縁）

4 同一意識の人々の団体である。（目的）

5 個人の支配下にある。

6 大衆の意見に同調する人々の団体になっている。

20

7 8

21

一世界は二大国に分れつゝあり、（高級的聯合体）

二大国は分れたまゝ戦争状態すれば

は理想的、人は全の統一するものに

すれ、[illegible]二の国の一つは所有である

是も事実である。三大国が戦争すれば

地球ハ破滅である。

一一、一五、

現代日本統治用具の主要物件

一、武力
二、マスコミ機関
三、官僚制
四、政党
五、議会
六、暴力団

2.2

23

口家体験の性[illegible]

口家は誠の存在によって出来たか。出来る人の讃美でか始めたか又は人の存在によるか。その何れか。

私は何れでもない。口家の存在によって迄する（それでも[illegible]）わからない。あるかいうるか役者のみ。それなる時は人によっては観点によってはそこ先んじていても繰りつつある。何百年も何千年の前わする情は同じであろう。口家は生へうれているようにして最初から考えてよいのである。それが出来た時からとんで情であったものとそれは何かは無意味をる物である。口家は生へうへいるのである。言語と同じように。それ考えてよい

のである。

然し私等の両方に最近しきりに作り出されている日本は甚だ[illegible]である。クーデタがあって薄弱な短い政府の意識に富む人が深かれ[illegible]層が生まれ、官僚が組織されるの下に民衆を擁[illegible]する事。

これは政権の変化の時である。が日本は今猶ある政権を世界の政権と関聯して考えた場合の表現である。

#然し共同社会は生活共同体が主で、必要に應じて如何なる集団も其の上に形成し得るもの、單に集団の幾つかが累積しただけではキュムラチブコミュニティーであるも一つの利害共同体による共同も共同体と云ひ得る。スクウルコミュニティーの如し。生活共同体とは特別に考へる必要がある。

コミュニティーと地域性

ゴルフの会員が健康増進和愛増進会を作り、其の上に学窓後親睦会を作り子供教育会經済講演集会音楽同好会を累積したものをコミュニティーと云ふ事が出来る。ここには地域性は少しも這入らない。#

昔のコミュニティーは多分に地域性を含んでいた。主として地縁と血縁によって交っていたから、村落と都市における血縁の関係、信仰の関係職業の関係、趣味の関係で交わったのが特別[illegible]かの其れ等の集団を作った。此れでは信仰、職業、趣味の外主義主張の共鳴思想学問政見の教育等の一致の為、娯楽、観光旅行等の為、集って団体を作る。利害共通の

この国は、
人はお互いに信じ合い互いの迷惑をかけもせず
かけられもせぬ国などできそうとした気がして
人は平等で自由で、互いに尊敬し合い、~~平和~~
~~尊敬合い~~協力しあい人道主義で、自由主義
であることを理解し合っている。知的な人のさらっと
した交はりを重んじている。それが近代インテリ
の社会職人を軸としている。そんな人は見ず
知らずの人でもさらっと交わり平気で協力し合う
事が出来るよ。

近代日本の変質

(一) 人間関係、人間関係より集団関係、集団関係へ

行動様式における自我意識の明白化、集団化より

(三) 他国勢力の介入、支配の増大

(四) 集団対立の激増。

（要旨内訳）

コミュニティ理論と地域性

アソシエーションの重積体系の中にはやはりい
らくで、論者が何かする統体にまとまるが、識等
意識の基礎になるものがかつての地域性がなす
いまはもうでてこない。それは個人の心へ世界を
の統一体の力がない。」
地域性がなければいったい人々が力を出し合うのか
何のためかの地域性か。地域性が付けられるのである。
重積体は固定し、あるいは集団の要請で
外は人間個体の要請が加わりながら
特有の意識の世界が出来、自らし相互
期待の世界が出来、又相互期待の世界が
出来あがってくる。相互期待の関係に
出しつつ、部分相対的に作用してすしつつ

我れよく聞かされる言葉に地域社会と云ふ
語がある。これは戦前から共同社会（又社会とも）と云ふ語で訳
されていたコミュニティと云ふ語の日本訳
である。共同社会と云ふ語は利益社会
と云ふ語は対立するものでドイツ語のゲ
マインシャフトとゲゼルシャフトの語に対應す
る訳字としても用ひられている。又同様な意
味でコミュニティーと云ふ語はアッソシエーションに
対立し略同様な意味で（関係の[illegible]）用ひられている。
（然しゲマインシャフトは結合の仕方に重き
がおかれコミュニティーと云ふ場合は結合組
織の形態が同視される。）

化して行くか時間的には切離してみようと考へて
故に明らかに時間的同一性を保っていると
私が自然村に於ける様な精神の如き
[illegible]がないもの。
あの日本の自然村の社に、信仰は[illegible]
も地域上は固定されていない全体は共有するしな
いとしても同一の経営は居住の関係
しない人の間に於ける~~集團~~（諸関係）には皆存
ている。コミュニティ・エリヤの様なものであつて
色んのエリヤ、ローカリティエリヤ・サービスエリヤ。
エリヤは様な圏と呼ばれる事もあるが、
まして地域の上にきまつたものの重積は当然
に重積的全体に存する我々（[illegible]）体に

コミュニティーは様々のアソシエーションを其の内に含んでいる全体である。国民は其の中には様々のアソシエーションを含んでいるが、其の全体に加へてコミュニティーとなるのであるが、国家もアソシエーションの一つと見るとこれ大なる問題がある。アソシエーションと云ふのは分かりやすく云へば団体である。国民の中には様々の様式の大小各種の団体があるが、其の一つが国家であるとするのである。アメリカのマキーヴァーがこの考えを發表した時には大なる驚きであった。私共の学界の氏であったへのやり込めた當の国家論学者の思想史

我等世界の一員であったこと村落のもつアメリカ大都市に住しあてスラーバッコミュニティーは近代国に過ぎないが失え。其のかつてのコミュニティー意識は色々の集團がおっかぶせる様になった。つまりニティーはゲゼルシャフトの隣人との変はりはないある。自然村と人為的に組織的に形成して来たのである。経済的な町より強力な指導者が来ての関連りしてコミュニティーとか云ふ語が多く用ひられれなと解する場合が多くの説がなされ學説としてコミュニティーとする場合は日本の部落とか村とか地域的のものの意が多い。

の中で部分社会の各事業の囗家型学説も
大きなショックと思はれるが、囗家多元論
も大きな発言である。今日多くの政治学
はこれを認めている。

囗民生活の中には多くの団体があるが
囗家も一つの団体である。多くの団
体をその中に含んでいる社会的統一体
は名づけてコミュニティーの語を用いる。
だから他の団体は部分であり
コミュニティーは全体である。この意味から
も高田保馬博士はコミュニティーを全体社
会、団体を部分社会と云う。だが
部分社会が集まって全体社会が出来

マキバーの用語でいえばコミュニティーは一定
地域社会で、その成員が相互に接触の基盤と
区別して集合的の組織と中心的
組織し、集団的目的によって組織体
あるが、コミュニティーはその組織体で目的を
組織しておいと思た。それが中に幾つかの目的
を含むそのコミュニティー自体が目的より
組織されたものが囗家であるとコミュ
ニティーの方を全体社会が加へ
これは至る所で発展する。コミュニティーは
分析してゆくとエーリッヒは全体して囗家は
その一種であると見る。即ち囗家意識
を土台にした物である。コミュニティー自体を基

それぞれ部分又全の一つが全体乃至自体と名のり出たと云ふのは手品師の様である。

私は上述の用語を用ひて云へてそのコミニティー自体は有機すなはち生きている自然的であるとしたい

になる。人間が集まつて高度関係ができて行く。実際創立されるといふ様々に依存した

以上の意見は如何なものであらうか

この考への段階を整備して私にはなかつたか

るであらう。私は次の様に答へたい。組織

コミニティー自体の目的（具体的には）の為の集団

例へば一つの国家は土地共同体に據い

た組織の為の組織的集団である

い。私は云いたい。此様する共同の土地

の境界内の居住者は土地共同体

権の組織を保障する内外の勢

認

△都市の城壁が不用になるのは国家の防衛組織が完備してきたからである。村落の土塁が不用になったのは、都市の城壁が完備したからである。それと同じように今日国民は全く国の国境の守備に期待している。

之を守る組織が国家である。故に国家は国境内の居住者の纏まりによって形成されるもの、何よりも国家は国境内居住者全体のもの、其の一部の人にのしかゝっていないと考へるが[illegible]いる。国境は国境内の国民の生存を守るが為めで、全国民が一つの運命共同体としての宿命をもったものとしての我等を意識せしめ、一層深く各々のもの。国民の運命に多い関係をもつ国境線上の出来事が国民の耳に大きくひびくのは当然である。△

国境については法律上の境界と政治上の

鮮男が来ても居れない。国際法上の公認されぬ一鮮男と政治的に移動せず、一定地に上の日鮮人は（一番は）~~朝鮮人は~~差別意識的に差しく公害の對抗と相互の立場が認める契約内容は其手段として一定の契約では労働條件を（明示すれば）附与の融和出来力の融和合一は事務上保障されて日本人は戦争、日鮮を意識するのは会うなかった。我々は八千万に対し正当な事を行った。

日鮮協の者であることは我等の日本人はやはりと体を併合せしめられてきた。今後朝鮮はソレの土地もあますことなく何処の日本人の

39

国境内にある。自分の国の国境を拡げねば

もぐり込む国境付せずとこれなさい

先日の新聞で見た中国要人招宴会

一人が中国からきたいという勝の大使係に（ほとんど解体）

出ずに二人で中国日本ソ勝が通路間に

国際間でもあったり、また来る事件が

ある。

当別の中国人の家居

日本の敗戦兵

国家は勝つの戦の内にある

国境の丁生

高麗村の山奥中、

茂地は人間の世界

＃生活の意識化

意識的集団の政治力化

政治的対立と口際の分裂

勝ては官敗けれは賊軍

世界各地いかゝ互乱、クーデタル

革命、口家独成立

口民経済を土地共同体と協同体、

と見做し、口家を其の目的

実現の為の組織体と見る見解

の修正の必要

口家を共同体の上に冠らする

ち共同体、かれとてこの上に口家か

かぶさつているとみる考への修正の必要。

96

家の戸籍制

村の土地割

都市の城壁

口境線

口境内経済

部落経済の並列、村、中央都市

部落経済同の交流頻繁

都市の機能と役割

口境内経済の最近の激変

経済関係の解放化

集団化、大日本化、

対立の激甚化

＃